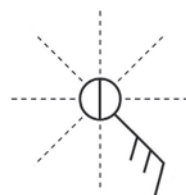


〈解答〉

- ① (1) ① イ ② イ (両解)
 (2) 67%
 (3) 8.1g
 (4) 右図
 (5) 1気圧

① (4)



配点 各1点 5点満点

〈解説〉

① (1) 温度計の感温部が、地表に近すぎると、地温の影響が大きく出てしまい気温を正しく測定できなくなる。そのため、地表からはある程度離すことになるが、通常は1.2m～1.5mの高さで測定する。

気温を正しく測定するためには、①地上約1.2m～1.5mの高さで、②直射日光が当たらない、③風通しの良いところ、という3つの条件が必要である。

(2) 水が蒸発する際には熱（気化熱）を周囲から奪うので、湿球の示度は乾球の示度（気温）よりも低くなる。したがって、1図より、乾球の示度は14℃であり、湿球の示度は11℃であることがわかる。これらの差が

$$14 - 11 = 3 \text{ [}^\circ\text{C]}$$

なので、2表より、このときの湿度は67%であったことがわかる。

(3) このときの気温（乾球の示度である14℃）における飽和水蒸気量は 12.1g/m^3 であることから、空気 1m^3 中には

$$12.1 \times 0.67 = 8.107 \text{ [g]}$$

の水蒸気が含まれていたと考えられるので、これの小数第2位を四捨五入すると8.1gとなる。

(4) 空全体の面積を10としたときに、空全体に対して雲が占める割合を雲量という。雨や雪などの降水がない場合には、雲量0と1を快晴、2



～8を晴れ、9と10をくもりとする。なお、一般的な天気図で天気を表す主な記号として、右の図のものを用いる。また、風向が南東なので、中央の円から南東に風向を表す直線を引き、風力を表す3本の矢羽根を、中央の円から反対側に傾けて時計が回る側につける。

(5) 4図のアネロイド気圧計の針は1013hPaを示していて、 $1013\text{hPa} = 1\text{気圧}$ である。